

第 60 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境の順応的管理—

4月の研修会は、園内の樹林地の順応的管理として常緑低木の間伐と、様々な植物が見られる時期でもあるので、園内の植物観察を行いました。



朝までの強い雨が嘘のように、晴れ渡る
絶好の天候の中、研修会はスタートしました。



こちらは、定期的にはススキやオギの
刈り取り管理がされている草地です。
今回の研修会は、観察を中心に進めました。



見つけた植物を各自、図鑑で調べます。
秋の調査では確認できなかった種も、
春になると芽を出し、見つけることができます。



何種かリストにない植物が見つかり、
新たに公園の確認種リストに加えました。
やはり年に数回の定期的な調査は必要ですね。



明るい草地では、こんな生きものも見られました。左がニホンアマガエル、右がヤマトシジミです。



都市部では少なくなっている、カントウタンポポの群落が見られました。



左の写真、何だと思いませんか？こちらは刈り取り後生えてきたススキなんです。
このようにススキは、一つの根株から丸い輪状に株立ちします。左は刈り取り前の写真です。
ススキと似たオギは、地下茎で広がるので株にはなりません。



雑木林のコナラ、クヌギの違い、わかるでしょうか。左の写真で赤い矢印の赤黄色がクヌギ、
白い矢印の白っぽいのがコナラです。右の写真のように、コナラの若葉はおいしいので、
虫たちに食べられないよう、白い毛を生やしています。



樹形でも、こんなに違います。左がクヌギ、右がコナラです。
クヌギは上部が鋭角で、コナラは横にひろがっていますよね。



午後は、気になる環境の記事の発表から
スタートです。今回は、新緑の美しい
森の中で行いました。



その後、数年前から常緑低木の間伐を行って
きた雑木林の、林床の植物を観察しました。



こちらはササバギンラン。この辺りが暗かった時期は、5～10年程。その間根っこで休眠し、明るくなるのを待っていたようです。先月の落ち葉かきの効果もあるのかもしれませんが。



こちらはシュンラン。下の葉は、まだ林床が暗かった昨年のもので、今年の葉の方が太く元気に見えます。



最後に、スギ・ヒノキの植林地へ移動し、間伐作業をしました。作業で出た間伐材の利用も考え、箸や杖にする作業もしました。

これで、今回の研修会は終了となりました。

5月からは湿地環境の維持管理となります。今後も、現場でビオトープについて学べる研修会として、充実した内容をご提供していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。